

2019年 9月30日  
京成バス株式会社

## 「ドライバー異常時対応システム」搭載 大型路線バスを導入しました

京成バス(本社:千葉県市川市、社長:齋藤 隆)は、「ドライバー異常時対応システム(EDSS: Emergency Driving Stop System)」を搭載した最新の大型路線バス1両を導入し、運行を開始します。また、当該システム搭載車両の導入を順次拡大します。



上:システムの作動イメージ

左:非常ボタン(客席部前方1カ所) 右:非常ボタン(運転席左側)

このシステムは、バス走行中において乗務員に異常が発生した際、乗務員が運転席スイッチを押すか、またはお客様が車内に設置された客席スイッチを押すことで、バスが制動を開始し、段階的に速度を落とし停止します。また、車内では赤色フラッシャーの点滅と音声アナウンスでお客様にお知らせするとともに、車外にはホーンを鳴らし、ストップランプとハザードランプを点滅させて異常を知らせます。

これまで当社では、「ドライバー異常時対応システム」を搭載した高速バスを導入する等、安全装置を搭載したバスの拡充に努めてきました。新たに「ドライバー異常時対応システム」を搭載した路線バスを導入することで、ご利用のお客様に安心・安全な運輸サービスを提供します。

## 「ドライバー異常時対応システム」搭載車両(大型路線バス)の概要

1. 車 種：日野自動車製 大型路線バス『ブルーリボン』
2. 定 員：85名(座席24名+立席60名+運転席1名)
3. 安全装置：ドライバー異常時対応システム
4. 運行路線：新都心営業所の大型車両が走行可能な一般路線バス全線

